

シリーズ 言語文化教育研究

「言語教育とアイデンティティ形成—日本語・国語・外国語の連携と再編」



2011年 第5回

タイトル: 多言語社会のアイデンティティに関する哲学的考察

—チャールズ・テイラーの多文化主義

話題提供者: 河野 哲也 氏(立教大学文学部)

日時: 2011年2月4日(金) 17:00~19:00

場所: 早稲田大学 早稲田キャンパス 22号館 8階会議室

要旨

これまで私は、ベルギーとカナダに留学したが、期せずしてそのどちらもが二言語併用の多言語社会であった。個人的に経験したことを含めて、それぞれ独自の多言語社会の在り方とそこで生じていた社会・政治問題をまず報告したい。そしてさらに、多言語社会では必然的に問われることになる言語とアイデンティティを巡る政治哲学的な問題について考察したい。

とくに本発表で注目したいのは、カナダのフランス語圏であるケベック州出身の哲学者、チャールズ・テイラー(Charles Taylor)の多文化主義と自己論である。そこで彼が問題としているのは、脱文化的アイデンティティと文化依存型アイデンティティのせめぎ合いであり、この対立は、ちょうど、ジョン・ロールズを代表とするリベラリズムと、サンデルやテイラーを代表とする共和主義(共同体主義)の政治哲学の対立と重なりあっている。テイラーの主張を紹介しながら、現代のアイデンティティ政治哲学を概観したい。

主催 言語文化教育研究会

代表・細川英雄(早稲田大学大学院日本語教育研究科) <http://www.gbki.org/>

多くのみなさまのご参加を心よりお待ちしております。

来聴歓迎、参加無料、事前登録